

■■メールマガジン「静岡県防災」第27号■■

未来へつなぐ3.11

もうすぐ東日本大震災から12回目の3月11日がやってきます。

国（内閣府防災）では、様々な災害で被災をした方々に「災害の一日前に戻れるとしたら、あなたは何をしますか」と問いかけた経験談を「一日前プロジェクト」として、多数集約しWebデータベースで公開しています。

「一日前プロジェクト」から東日本大震災の経験談を一つご紹介します。

『 「2日前には逃げたのに・・・」 （宮古市 50代 男性 建設会社社長）

震災の2日前の3月9日に三陸沖で地震が発生し、津波注意報が出されました。宮古の沿岸に住む80歳を超える私の叔母は、その注意報を聞いて逃げています。

逃げたけれども、その時津波は50センチしか来なかったのです。

私が一番ショックなのは、9日に逃げているのに、11日には逃げなかったという事実。「この間とは違うから」と言っても、頑として言うことを聞かず、説得していたお嫁さんともども亡くなってしまったのです。

震災のあの日、地元のラジオ局は、地震発生後に気象庁が発表した「14時46分津波の第一波観測、大船渡で20センチ」を放送しています。

その低い観測値を聞いたから逃げなかったという話もありますが、私はそういうことではないと思います。

海の近くで大きな揺れを感じたら、何度でも逃げてほしかったと思っています。 』

「一日前プロジェクト」の内容は、引用・活用が可能です。

「一日前プロジェクト」を活用して、貴重な経験を防災につないでいきましょう。

本県では、東日本大震災が発生した3月11日を含む10日間を津波防災推進旬間と定めています。

今年度は、3月3日（金）から12日（日）までを津波防災推進旬間とし、3月5日（日）を津波避難訓練の統一実施日としています。

沿岸地域にお住まいの方は、地域で行われる津波避難訓練等に参加しましょう！

「一日前プロジェクト」防災情報のページ

<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/>